



夏を満喫

今年は猛暑の関係で大きな行事を夏以外の時期にずらしています。それもあり、夏はゆったり過ごせたように感じます。本日行われたプール納めでは子どもたちが夏のプールでできるようになったことを披露してくれました。特に幼児の子どもたちはクラスの仲間が頑張ってきた過程を知っていますので、一人ずつの披露が終わるごとに「すごい!」「やったー!」と拍手と歓声が沸き起こりました。仲間に見守られ、認められ、この夏も自信をつけたことがよく伝わってくるプール納めでした。これからの成長がさらに楽しみです。

先日、増山均先生（早稲田大学）のお話を聞く機会がありました。テーマは「子どものしあわせと権利保障」。この研修をきっかけに増山さんの著書も何冊か目を通し、その中で「あそびと遊び」「声なきこえ」「なにげない時間」などの言葉が残りました。

あそびがあって遊びが成立する

子どもにとっての「あそび」とは、大人に決められたものではなく、一見大人から見るとくだらないことだったり、意味のないように見えることだったりしますが、子どもが夢中になっているものこそが「あそび」です。「遊び」は大人に与えられたものや大人が組み立てた楽しい遊びがほとんどであるとおっしゃっていました。「あそび」と「遊び」は違いがありますね。保育園の活動にも遊びがありますが、「あそび」があるからこそ「遊び」が成立し、楽しんでいけるのだと思いました。

また、そのあそびができるのに必要なのが「**なにげない時間**」「**自由な時間**」の保障とのことです。保育園の子どもたちは朝、夕の時間は好きなあそびを見つけ思い思いに遊んでいます。あそぶ物もあそぶ仲間も空間も時間も自分で選びます。この時間の中で自分の興味関心を見つけ、その面白さに没頭し、夢中になる、子どもにとっては最高の時間だと思います。それが少しずつ自分一人だけではなく、同じ興味のある仲間と繋がったり、子ども同士の関わりへと広がっていきます。その関わりによって、相手の心の動きを感じたり、やりとりが楽しい、面白いと思う気持ちが育ち、自分が大好き、仲間が大好きになり、人との関わりを豊かにしていきますね。保育園時代に一人ひとりが自分の好きな「あそび」を見つけられるよう子ども時間を大切にしていきたいと思います。

「声なきこえ」に耳をすます

著書の中には「声なきこえ」に耳を澄ますことについても書かれていて、子どもの思いや願い、不満や希望は必ずしも言語化されないことのほうが多いとも書かれていました。子どもは生まれた時から自分の思いがあり、それを自分なりに表現しています。どんな思いもまずは受けとめてあげることが大切だと思っています。思いを受けとめてもらえないと子どもは思いを出すことをあきらめてしまうかもしれません。子どもたちが自分の思いを出すことをあきらめることがないよう、私たち大人は子どもの興味関心に思いを寄せたり、その子の背景に思いを馳せたりしながら、子どもの思いを理解しようとする姿勢が必要です。

私たち保育士も保育を展開していく上で子どもの声を聴くことは欠かせません。子どもたちが何を望み、何を求めているのか、一人ひとりの表情、背景、声に耳を澄ませ、一緒に生活をつくる仲間でありたいと思います。